



日本福祉大学 健康社会研究センター

Center for Well-being and Society

〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田5-22-35 日本福祉大学 名古屋キャンパス北館 7階
TEL : 052-242-3074 / FAX : 052-242-3076

◆ニュースレター購読希望の方は下記のページでご登録ください。 <http://cws.umin.jp/index.html> (健康社会研究センターホームページ内)

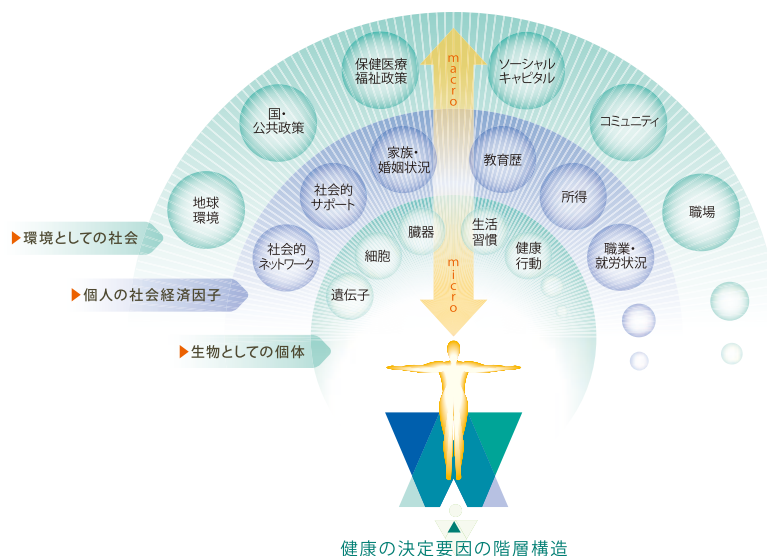


センター長
近藤 克則

Well-being (幸福・健康)な社会づくりに向けた 社会疫学研究とその応用

日本福祉大学健康社会研究センター (Center for Well-being and Society) は、文部科学省の平成21年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」として採択され、2009年6月1日に開設されました。

Well-being (幸福・健康)な社会づくりに向けた社会疫学研究と、その応用のための拠点を目指しています。社会疫学とは、健康の社会的決定要因の解明を進める新しい研究分野です。大規模データを用いた実証研究と、得られた知見を社会に応用するための政策研究や社会への情報発信を行います。



<健康社会研究センターのミッション>

- ① Well-being の社会的決定要因の研究
健康の社会的決定要因と、それが Well-being (幸福・健康) に影響を与えるプロセスを解明します。
- ② Well-being な社会の研究
ソーシャル・キャピタルなど社会の特性が健康に影響するプロセスについての理論研究や JAGES プロジェクト (p.3 参照) のデータを用いた実証研究に取り組んでいます。
- ③ Well-being な社会づくりへの応用
保健・医療・福祉政策に留まらない広義の社会政策の研究や、自治体と協力した地域介入研究にも取り組めます。

1

Well-being (幸福・健康) の社会的決定要因の研究

本センターでは、幸福や健康に影響を及ぼす社会的決定要因を明らかにするための研究を行ってきました。幸福や健康にとっては、身体的・医学的な要因だけでなく、心理社会的な要因の影響も大きいことを明らかにしてきました。

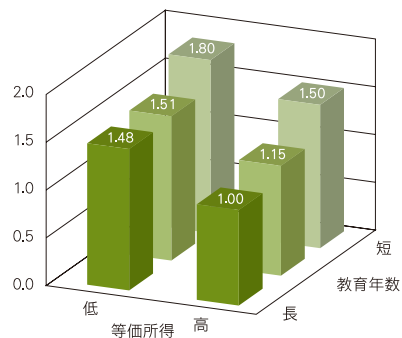
● 研究成果の一例

所得と教育年数と健康との関連

等価所得（世帯人数を考慮した所得）が低く、教育年数の短い高齢者では、1.8倍健康寿命を喪失しやすいことを縦断研究で明らかにしました。

Well-being (幸福・健康) を考えるうえで、心理社会的要因の影響は重要なファクター。

等価所得・教育年数別のハザード比
エンドポイント：健康寿命の喪失（男性）



【対象】
• 65歳以上男性
• n=6,989
【追跡期間】
• 4年 (1,461日)

● 研究成果 (書籍)



検証「健康格差社会」

高齢者約3万3千人の大規模調査を用い、「健康格差」を検証。介護予防で注目されるうつ、転倒、閉じこもりや、虐待などにも、社会経済的地位による最大約7倍もの格差があった。なぜ介護予防対策はうまくいかないのか、もう1つの介護予防戦略を探る。ストレス対処能力やソーシャルキャピタルにも注目した実証研究報告集。

• Katsunori Kondo (ed.) Health Inequalities in Japan: An Empirical Study of Older People Trans Pacific Press (2010)



「健康格差社会」を生き抜く

深刻な格差社会の拡大。低所得と病気を関連づける疫学データは多い。だが、それだけではない。社会福祉の専門家である著者は、格差が「勝ち組」をも不健康にして社会全体の地盤沈下を招いていることを解明。健康格差に対抗し、隣人・友人とのネットワーク作りなど、社会と個人の「心とからだ」の健康を守る処方箋を提案する。

• 近藤克則著 「健康格差社会」を生き抜く 朝日新聞出版 (2010)



「見える化」が拓く「評価と説明責任の時代」

本書ではクライシスからの脱出に必要な課題を、その現状と要因、そしてイギリスの医療・福祉改革をもとに考える。さらに「見える化」とマネジメントによる改革の課題を、介護予防と健康の社会的決定要因（健康格差）、リハビリテーション医療、終末期ケアの研究を踏まえ提示する。

• 近藤克則著 「医療クライシス」を超えて 医学書院 (2012)

※その他の研究成果は健康社会研究センターのホームページをご覧ください。 <http://cws.umin.jp/index.html>
(プレスリリースはこちら <http://cws.umin.jp/press-releases/index.html>)

2

Well-being (幸福・健康) な社会の研究

個人の要因や個人の努力だけでは説明・解決できない健康への悪影響を与える社会が存在します。一方で、「ソーシャル・キャピタル(人々の絆)」が、人々の幸福や健康に影響を及ぼす可能性が指摘されています。その検証に取り組んでいます。

● JAGES (日本老年学的評価研究) プロジェクト

JAGES の前身となる AGES (愛知老年学的評価研究) を含めるとこれまで3度に渡る大規模調査を実施してきました。

2010/11 年調査では、北は北海道、南は沖縄に至る全国 31 自治体約 11 万人の高齢者にご協力頂きました (回収率 66.3%)。

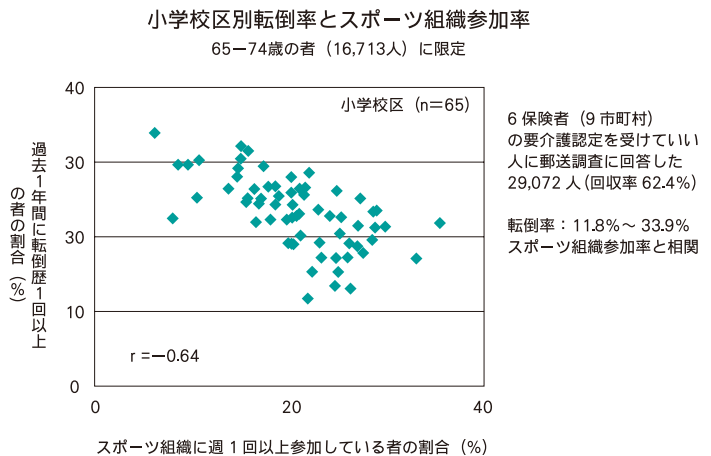


● JAGESプロジェクトによる研究成果の一例

転倒とスポーツ組織への参加

要介護認定を受けていない前期高齢者 (65 ~ 74 歳) の過去 1 年間の転倒歴を小学校区別に算出すると、小学校区により最小 11.8% ~ 最大 33.9% と約 3 倍の差がありました。

環境要因として「スポーツ組織に週 1 回以上参加している者の割合 (小学校区) との関連を見ると、 $r = -0.64$ という負の相関が見られました。



※詳しくは JAGES プロジェクトのホームページをご覧ください。 <http://square.umin.ac.jp/ages/index.html>

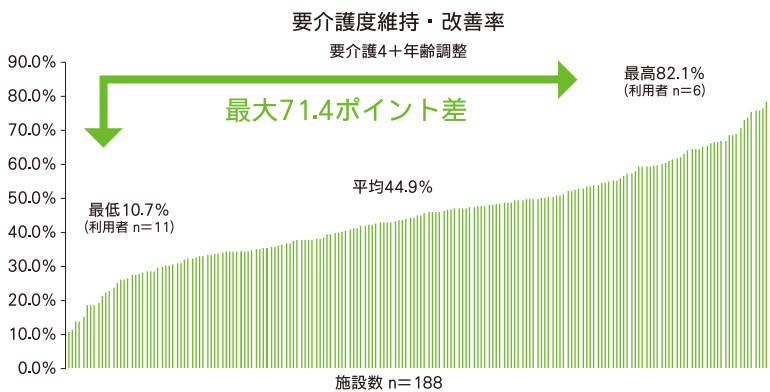
3-1

Well-being (幸福・健康) な社会づくりへの応用

研究によって得られた知見や示唆を現実社会にフィードバックしています。社会政策の立案や幸福・健康に関わる実践家や一般市民へ向けて情報発信し、Well-being (幸福・健康) な社会づくりへ研究成果の応用を試みています。

研究成果の例

①ベンチマーク・システムの開発



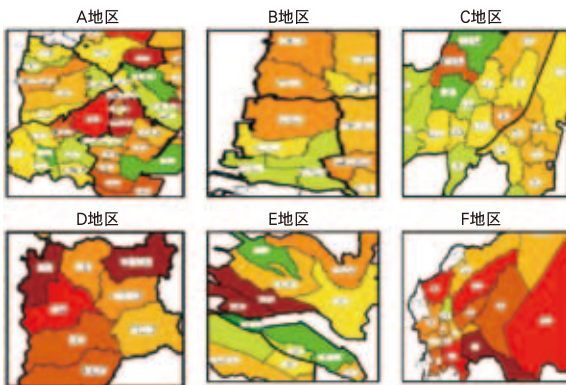
特別養護老人ホームにおける 要介護度維持・改善率

要介護4の入所者に限定し年齢による影響を調整しても、施設間で71.4ポイントの差を認めました。

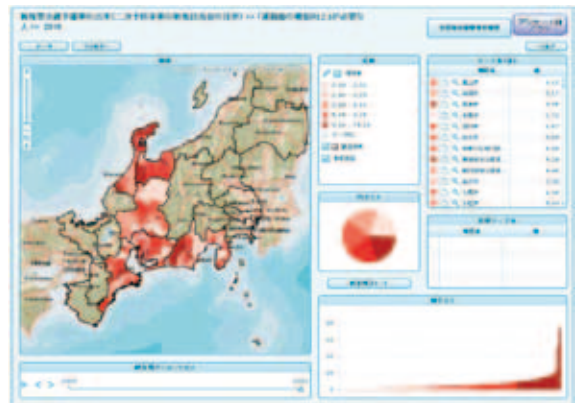
このような指標によってケアの質を「見える化」し、ケアの質を改善・向上させるための政策立案や事業所内マネジメントの支援に取り組んでいます。

②JAGES HEART (WHO 神戸センターとの共同研究)

老人用うつスケール10 - 15点の者の割合
(後期高齢者)



③介護予防 WEB-GIS (老人保健健康増進等事業：厚生労働省)



Well-being (幸福・健康) な社会づくりに向けた「見える化」の取り組み

※その他の研究成果については「ベンチマーク・システムの開発」のホームページ、http://square.umin.ac.jp/kaigo_bm/introduction.html または介護予防 WEB-GIS のホームページをご覧ください。<http://www.doctoralsakura.ne.jp/WebAtlas/top.html>

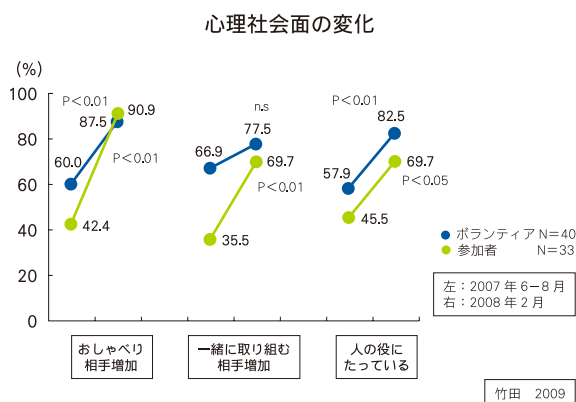
3-2

Well-being (幸福・健康) な社会づくりへの応用

研究によって得られた知見や示唆を現実社会にフィードバックしています。社会政策の立案や幸福・健康に関わる実践家や一般市民へ向けて情報発信し、Well-being (幸福・健康) な社会づくりへ研究成果の応用を試みています。

④武豊プロジェクト (介護予防のための地域介入研究)

愛知県武豊町において、一般高齢者を対象とし社会環境への介入を意図して、ポピュレーション戦略 (一次予防) に立ったソーシャル・キャピタルに着目する地域介入研究に取り組んでいます。



<武豊プロジェクト中間アウトカム評価の一例>

—参加者を対象とした評価—

社会的ネットワークやサポートの豊かな者ほど死亡率が低いなど健康状態が良いことがコホート研究でも確認されています。そこで、お元気チェックの際に参加者のつながりやサポートの授受が増えたかどうかを尋ねました。その結果、サロン参加当初に比べて、人と人とのつながりでは3割~5割、サポートの授受では4割~9割の参加者がそれぞれ増えたと回答されています。

※武豊町プロジェクトは、「介護予防マニュアル改定版(2012)」にて先駆的取り組みとして紹介されました。
プロジェクトの詳細は <http://square.umin.ac.jp/ages/taketoyo.html> (JAGESプロジェクトホームページ内) をご覧ください。

◎他にも以下のような成果がマスコミに取り上げられています (一部)

- ・NHK「くらし☆(きりり)解説」で「介護予防 WEB アトラス」の紹介 NHK 総合 (2012年5月24日 AM10:05)
- ・近藤克則「負担重い低所得の高齢者」中日新聞 (朝刊) (2012年4月5日)
- ・近藤克則: 医療保険改革「隠れた財源」の活用を 朝日新聞 (2011年11月17日)
- ・「歯がない人は認知症高リスク」NHK ニュース放送 (2011年1月21日 AM5:09)
- ・近藤克則: 看過できぬ日本人の健康格差 希望持てる社会へ転換が必要 東洋経済: 91 (p40, p90 で AGES データ紹介) 10/2 特大号 2010.
- ・スタジオパークからこんにちは: ニュース解説「介護予防事業の効果は?」で取り組みの紹介 NHK 総合 (2010年9月9日)

※健康社会研究センターでは研究のための寄付を募集しております。
【ご連絡先】 Tel: 052-242-3074 Fax: 052-242-3076 e-mail: admin-cws@ml.n.fukushi.ac.jp

◆ 研究拠点としての研究助成等の受け入れ実績

研究助成

(一部)

- 平成 23-27 年度「科学研究費補助金 基盤研究 A」社会的排除としての Well-Being 格差とソーシャル・キャピタルの研究
- 平成 23 年度「長寿科学総合研究推進事業（国際共同研究事業）」高齢者の身体心理社会的な健康関連指標の日瑞英比較研究
- 平成 23 年度「老人保健健康増進等事業」Web-GIS を活用した客観的評価指標によるベンチマーク・システムの構築
- 平成 22-24 年度「厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業」介護保険の総合的政策評価ベンチマーク・システムの開発

※健康社会研究センターでは共同研究者を募集しています。

学術賞

(一部)

- 日本公衆衛生学会奨励賞
平井寛：高齢者の「閉じこもり」に関する実証研究と地域における予防に向けた実践（2011）
- 川井記念賞
埴淵 知哉・平井 寛・近藤克則・前田小百合・相田潤・市田行信：地域レベルのソーシャル・キャピタル指標に関する研究、厚生指標 56(1), 26-32, 2009.

シンポジウム ・ 講演

(一部)

- 特別講演 格差社会における健康とストレス —社会疫学の視点から 第 27 回日本ストレス学会学術総会 2011.11.19 東京
- 共通論題 健康格差問題と社会政策 社会政策学会第 123 回大会 2011.10.9 京都
- 国際学術交流シンポジウム 日本社会福祉学会第 58 回秋季大会 2010.10.10 愛知
- メインシンポジウム 健康をまもる社会基盤を再構築 —その糸口はどこか— 第 68 回 日本公衆衛生学会総会 2009.10.21 奈良

◆ 国際シンポジウムを毎年主催

国際シンポジウム「『健康の社会的決定要因』を巡る国際的動向」

“World Trends in Research of Social Determinants of Health” 2011.12.23, Tokyo

